

第11回評価分科会 議事概要

1 日 時 令和3年6月23日（水）16:00～17:10

2 場 所 Web会議

3 出席者

【委 員】

椿 広計（分科会会長）、岩下 真理（分科会長代理）

【臨時委員】

久我 尚子、山本 渉、美添 泰人

【専門委員】

神林 龍

【審議協力者】

文部科学省総合教育政策局調査企画課係長、農林水産省大臣官房統計部統計企画管理官統計企画管理官補佐、経済産業省大臣官房調査統計グループ統計企画室参事官補佐、日本銀行調査統計局経済統計課統計総務グループ長

【事務局（総務省）】

統計委員会担当室：萩野室長、栗原次長、福田補佐、増成補佐

4 議 事

- (1) 令和2年度統計委員会評価分科会審議結果報告書（案）（第8回～第11回審議分）について
- (2) その他

5 議事概要

- (1) 令和2年度統計委員会評価分科会審議結果報告書（案）（第8回～第11回審議分）について

総務省から、資料に基づき、令和元年度 統計委員会評価分科会審議結果報告書（案）（第5回～第7回審議分）の説明が行われ、質疑応答が行われた。委員意見により何点か修正が行われ、取りまとめられた。

主な発言は以下のとおり。

- ・社会教育調査（民間体育施設）については、低い回収率について上げる努力をすることが必要と評価したところだが、建設工事統計調査（施工調査）についても、回収率が6割といった点は同じなので、社会教育調査と同様に、回収率向上の必要性について、評価の部分に記載しておくべきではないか。

・未回答、非回答、無回答と表現が混じっているのので、一つに統一した方が良い。

→御指摘を踏まえて、文章の整理を検討したい。

・4の欠測値の補完に係る主な方法等について、この取りまとめの英語版を出してはどうか。日本でもここまでやっているということは海外にはなかなか分ってもらえない。日本の統計について海外に対する情報発信が少ない。

・社会教育調査（民間体育施設）の母集団の整備とその利用方法について、文科省にお願いするが、重要な統計なので、総務省の知恵を借りるか、若手の研究者に声をかけて研究会を是非やってもらいたい。職員の負担もそんなにかげられないと思うので、学会の若手の知恵を借りるのが得策だ。

・用語の統一ということで言えば、前から気になっているのがサンプルサイズの日本語訳。本来「標本の大きさ」と言うべきであって「標本数」と称するのは間違いだとされているが、統計局などのホームページにはサンプルサイズのことを標本数と記している例が少なからずある。標本数＝サンプルサイズという言葉が世の中では広く使われている。

・標本数という用語の使い方については、経済学でもかなり混乱している。事実上「標本数」という言葉と「観測数」、オブザベーションの数という言葉でサンプルサイズを対比させて、「標本数」の時は実験の数、エクスペリメントの数とか種類とかそういう言い方をして用語を使い分けているが、「標本数」という言葉が使えるようになったらもっと楽になると思う。

・もう一つ「データセット」という言い方もある、これは「サンプル」やエクスペリメントと同じ意味で使われる。これらの用語については、公的統計、民間統計、学会等で相談して統一していただけるとありがたい。

・ISO 3534, 日本工業規格JIS Z8101というか、産業界では、「サンプルサイズ」については「標本の大きさ」という用語を使わなければいけないことになっている。元々学術会議の数学統計用語が終戦直後にできていて、それに合わせてJIS規格の統計用語ができて、当時はそれなりの規律があったのだが、今は分野によって非常にばらばらしている。この評価分科会で議論をするかどうかはさておき、教育の話と産業界の話と統計自体の話と、うまくすりあわせができれば良いと思う。

・「5（2）母集団情報の利用状況」ということは具体的にどのようなことを念頭に置いているのか。抽出プロセスも含んで検討するということか。

→標本の抽出方法までは想定していない。それぞれの基幹統計において母集団フレームとして何を使っているのか、事業所系の調査であれば事業所母集団DBを原則として使うとなっている中で、そこら辺の実態を確認した上で、今後の対応を考えていくなどフレームの利用に重点を置いて記載している。

・メンテナンス等に絞るということであれば「利用状況」という言葉は誤解を招く。母集団名簿として何を使っているのか、その更新等管理の状況がどうなっているかということが対象であれば、統計審議会等においては、そういった内容のことは「母集団名簿の整備状況」という呼び方で議論を行ってきたので、今の内容からす

ればそのような表現を使うことが適切ではないか。

- ・労働系だと、雇用保険の事業所の名簿が使われる。厚生系だと病院の名簿がある。必ずしも事業所母集団データベースが使われているわけではない。どちらが良いかということについては結論は出ていないと思うが、母集団名簿を事業所母集団データベースに統一していこうという方向が出ているのか。
- 事業所系について言うと、調査の特性に応じながら、原則として事業所母集団データベースを使っていこうという方向性が出されている。調査ごとにいろいろな種類の名簿が使われているという中で、そうした方向性を踏まえて、今後全体としてどのように進めていけば良いのかということがある。
- ・世帯系の統計は検討対象としないということか。
- 事業所系に限らず全体的に課題を洗い出すということで考えており、ここでは事業所系に限らない書き方としている。
- ・「母集団情報」ということばはあいまいな表現。もう少し書き加えて、「情報」という言葉が何を指すのか分るようにした方がよい。
- ・「母集団情報」という言葉を使う必要性はなく「母集団名簿」という記載にすれば問題ない。
- ・基幹統計調査の標本抽出における母集団情報の利用状況について確認するという文章になっているが、「標本抽出における」があると、サンプリングまで考えないといけない。
- 「標本抽出における」というと、抽出の仕方までがターゲットに見えるというのであれば、「標本抽出における」という部分は削除させていただきたい。
- ・世帯系、事業所系に限らず、母集団名簿に何を使っているのか、独自の母集団名簿を使っている場合には、その妥当性や管理がきちんとしてできているかどうかに関心があり、そういう形の文言にさせていただく。項目のタイトルと文章を訂正し、「標本抽出」は削除するという修正をし、委員の皆様にもう一度見ていただくということとしたい。
- ・文面については、事務局と分科会長に一任いただき、もう一度皆様に確認いただくという形にしたいと思うので、よろしく願います。
- ・統計委員会で様々な議論を行っている中で、用語の統一の話も、英訳による国際発信の話もいろいろなところで出ており、統一したルールがない中で、誰がどうしたらうまくまとめられるのか、それ自体が統一した共通の課題ではないか。

(2) その他

- ・次回の評価分科会の場所と日程は改めて調整する旨、事務局から案内された。

以上